

地域振興と地域的關係

——ツーリズム推進を中心とする考察——

森 信 之

I. はじめに

地域振興は、その対象となる地域、あるいは、地域振興のメカニズムとその効果を高めるための方策との関わり（森 2008）における異なった側面に応じて多様で錯綜した地域的關係を形成していると考えられる。こうした地域的關係は、地域振興を促す要因として不可欠な役割を担うといえるが、地域振興に関して問題をもたらし要因ともなり得ることから、地域振興を推進し、地域特性に適合したより望ましい効果を生み出し、高めるための方策を具体化する際の重要な論点としてとらえられる。

地域振興に関わる地域的關係については、地域振興を促す軸としてのツーリズム推進を中心としてみると、地域振興の推進、実現を促すメカニズムの作用（森 2006）、地域内外の主体を連携、統合、調整する機能を担う主体形成、組織形成（森 2009）といった側面で示される地域的關係との関わり、地域振興のための方策に関しては、地域振興を促す効果をもたらし計画推進の考え方に関する機能的関係と空間的關係に基づく視点およびそこでとらえられる具体的な取組を視野に入れた計画推進（森 2010）に関する側面で示される地域的關係との関わりをふまえることによって、地域振興の対象となる地域と多様な空間スケールで地域振興を促す作用との関係に関して焦点となる論点を明確にし、深化させることが必要となる。また、ツーリズム推進を中心とすることに関しては、地域振興の対象となる地域がもつ包括的な特性に加えて、地域振興の構造における中核的な機能の源としての地域資源（森 2006）の特性、特に、ツーリズム推進の基盤としての固有性が、そうした関係に関して地域振興にとっての有効性を高める柔軟なとらえ

方を必要とすることが重視される。

さらに、地域振興のための方策については、ツーリズム推進を中心とする地域振興を促す効果を生み出し、高めることが焦点となるが、その具体化のためには、地域振興に関わる地域的關係を基に、地域振興を促す作用が多様な空間スケールとそれに結びついた特性をもつ地域振興の対象となる地域に及ぶことに対し、そこでの軸としてとらえられる側面を見出すとともに、方策を構築するプロセス、それに関わる主体、方策の内容、効果をより高めるための仕組みを視野に入れた重視すべき課題を明らかにすることが不可欠である。

以上をふまえ、本稿では、地域振興に関わる地域的關係について、ツーリズム推進を中心とし、まず、地域資源の固有性との関わりを重視しつつその特性に関して考察する。次いで、広域性を重視した地域的關係、さらに、ツーリズム推進を中心とする地域振興を促す効果を生み出し、高めるための方策、仕組みの具体化に関して考察を進める¹⁾。

II. 地域振興に関わる地域的關係の特性

地域振興に関わる地域的關係について、まず、地域振興の推進、実現を促すメカニズムの作用に関しては、①地域振興の推進、実現のための主体が、対象となる地域と一体化しつつ作用する、②主体の社会的関係が多様な空間スケールをもち、対象となる地域の主体性の確保、持続を伴いつつ地域内の関係として作用する、③主体の社会的関係が、対象となる地域の主体性の確保、持続の強化への取組みとの連関を伴う地域外的関係との相互作用を中心とする（森 2006）といった点、また、地域振興におけるツーリズム推進、特に、その効果に関わりをもつ主体、組織からもたらされるツーリズム推進を促す

作用に関しては、地域内、地域内外双方を含む一定の空間、地域外各々において、地域内外の主体に関して連携、統合、調整する機能を担う主体形成、組織形成（森2009）をふまえる必要がある。さらに、それらを基に、地域振興における軸としてとらえられるツーリズム推進を中心に、その焦点となる地域資源、特にツーリズム推進の基盤となるその固有性との関わりと結びつけることによって、次の3つの地域振興の対象となる地域に視点を置いた地域的關係の特性を提示し得ると考えられる。

第1は、地域資源がもつ地域振興を促す作用が地域全域に及ぶことがもたらす特性である。これについては、地域的關係としてとらえられる中心とその周辺が形成する中心性に基づく関係、あるいは、地域間の機能分担とそれらの間の連携を促す関係に対して、地域振興を促す作用が包括的に影響を与えるため、その効果に関して地域全域がもつ特性、あるいは、構造を視野に入れ、こうした中心性に基づく関係、機能分担と連携を促す関係の相互關係から見出せる地域ごとの機能、地域間および機能間の關係がもつ特性が重視されることになる。また、ツーリズムの特性、形態の基盤となる地域資源がもつ固有性については、地域全域がグローバルな関わりを含めた地域外に対してもつ内容、程度が焦点となる。したがって、ツーリズムを中心とする地域的關係に関しては、地域全域に及ぶツーリズムの展開を不可欠とし、そこでの地域資源間の連携を促す必要があることから、地域における機能分担と連携を促す關係の重要性が相対的に増大する傾向を示すことになると考えられる。こうした傾向のなかでは、ツーリズム推進に関して、各々の地域資源、あるいは、地域全域におけるそれらの連携が、広域的に、また、地域外に対してもつ固有性が重要な基盤としてとらえられることになる。

第2は、地域資源が地域における一定の広域的範囲に存在し、地域振興を促す作用がそうした広域的範囲を中心に地域全域に及ぶことがもたらす特性である。これについては、地域振興を促す効果を生み出し、高めるうえで中心となる広域的範囲においてその基礎が形成されることとなり、中心性に基づく関係、機能分担と連携を促す關係の相互關係から見出せる地域ごとの機能、地域間および機能間の關係とともに、双方の關係が重なり合うことによって形成される地域ごとの重層的な地域的關係に着目することが必要となる。これらは広域的範囲において多様で錯綜した地域的關係を形成することとなり、こうした地域的關係の特性が重視されることに加え

て、広域的範囲以外の地域を含めた全域的な地域振興を促す効果を視野に入れることが重要となる。ツーリズムに関する地域資源については、広域的範囲が地域内の他地域、グローバルな関わりを含めた地域外双方に対してもつ固有性が焦点となるため、ツーリズムを中心とする地域的關係に関しては、中心性に基づく関係、機能分担と連携を促す關係のいずれかが多様な程度で優位性をもつこと、あるいは、両者が重なり合うことによる重層的な關係が優位性をもつことがそこでの軸の形成を促すことになると考えられる。また、ツーリズム推進との関わりでは、広域的範囲における地域的關係、それらと地域内の他地域との関係、全域的に形成される関係、それらと地域外との関係の各々、あるいは、それらの相互關係のなかでとらえられる固有性が基盤となることが重視される。

第3は、地域振興を促す作用をもつ地域資源が局地的に存在し、地域においては地域資源相互の間の關係と地域間の關係とが連動、一体化することがもたらす特性である。これについては、各々の地域における地域資源が個別性、独自性の強い性格をもち、それらが地域間の關係と連動、一体化することによって、地域振興を促す効果をもたらす關係を形成することとなり、地域資源間、地域間における特定のこうした關係が軸となる機能を担う特性が重要となる。この場合、地域振興を促す作用は、特定の軸となる地域的關係の影響が及ぶ範囲に限定的になる性格をもつことに対し、その効果の地域全域への波及を生み出し、増大させるための新たな關係を創出、強化することを視野に入れることが不可欠となる。ツーリズムに関する地域資源については、各々の地域におけるそれらに基づく關係の影響が及ぶ範囲を越えた地域、あるいは、グローバルな関わりを含めた地域外に対してもつ固有性が焦点となるため、ツーリズムを中心とする地域的關係に関しては、そうした固有性が個々の地域資源およびそれらの連携が形成する地域における広域的關係、あるいは、それらと地域外との關係において中核的な機能を担い得ることが重視される。また、ツーリズム推進との関わりでは、地域におけるこうした地域資源の特性ごとの關係、それらの連携による広域的關係、さらには地域外との關係といった空間スケールに応じた観点²⁾とともに、個々の地域資源やそれらの連携がより広域的な関わりとしてのグローバルな関わりと直接結びついた観点からとらえられる固有性が基盤として重要になると考えられる。

Ⅲ. 地域的關係と広域性

このような地域振興の対象となる地域に視点を置いた地域的關係の特性については、ツーリズム推進との関わりを深化させ、ツーリズム推進を中心とする地域振興のための方策に結びつけること、その際には、方策に関して、ツーリズムに関わる政策のガバナンス(Hall 2011)、ツーリズムの政策ネットワーク・マネジメント(Dredge and Pforr 2008)といったツーリズム推進を中心とする政策の有効性への展開やそれに伴う問題を視野に入れることが必要である。これをふまえ、地域振興を促す効果をもたらす計画推進に関する考え方の基礎としての機能的關係と空間的關係に基づく計画推進の具体化のための視点、特に、対象となる地域と地域外との広域的關係、対象となる地域を焦点とする空間的關係から示される局面(森 2010)に基づくことによって、地域外との關係を中心とする広域的關係がもつ性格としての広域性を重視した地域的關係に着目し、地域振興のための方策の有効性を高めるための仕組みの具体化へと論点を深化させることが可能となる。その際には、先にツーリズム推進の基盤としてとらえた地域資源の固有性に基づき、ここでの広域性を観点とした場合の拠点的功能の存在、あるいは、地域振興を促す効果を生み出し、高めるためにそれを創出、強化することを重視した次の3つの地域的關係に着目することが重要になると考えられる。

第1の地域資源がもつ地域振興を促す作用が地域全域に及ぶことがもたらす特性については、こうした作用が、地域振興の対象となる地域だけでなく、地域外の地域にも及ぶことによって形成される地域的關係である。この關係では、地域振興の対象となる地域とともに、地域資源のそうした作用が地域外の地域にも及ぶことによって、それら複数の地域が形成する広域性が地域振興にとって重要な役割を担うことになる。その際、各地域が形成する広域的范围は、地域資源がもつ地域振興を促す作用を生み出し、増大させるうえでの対象地域として包括的、統合的に編成される必要がある。また、こうした編成のプロセスにおいては、各地域とともに、各地域が形成する広域的范围、さらには、それを越えるより広域的な関わりでとらえられる地域資源の特性に基づく拠点的功能に着目することが重要となる。そのため、各地域はそのプロセスに各々の特性に適合した関わりをもつことが不可欠となるとともに、こうした広域性を基盤とす

るツーリズム推進のための地域資源の固有性をより広域的な関わりと結びつけつつ重視し、それらが一体化することによって各地域に効果をもたらすことを基本として、地域振興の対象となる地域に適合した方策を明確にすることが焦点となる。

第2の地域資源が地域における一定の広域的范围に存在し、地域振興を促す作用がそうした広域的范围を中心に地域全域に及ぶことがもたらす特性については、広域的范围が地域外において作用が及ぶ範囲を含み、地域内外の一定の広域的范围がもたらす作用が促されることによって形成される地域的關係である。この広域的范围は、地域外の地域においても形成されているため、地域振興を促す作用については、地域における広域的范围を焦点として効果を生み出し、増大させる側面、これを中心に作用が地域全域に及び、地域全体としての地域振興に波及していく側面、地域外を含めた広域的范围の作用が、地域内の一定の範囲、あるいは、地域全域に及ぶことによって、地域外からもたらされる作用との直接的な関わりで地域振興を促す側面といった異なった側面ごとにとらえる必要がある。そのため、こうした広域性は、地域外の各地域がもつ地域資源の固有性をその基盤として含み、各地域およびここでの広域的范围がより広域的な関わりにおいてツーリズム推進のための拠点的功能をもつこととなる。したがって、これに基づく方策では、地域振興の対象となる地域への広域的范围を視野に入れた効果を生み出し、高めることを軸として明確にすることが焦点となる。

第3の地域振興を促す作用をもつ地域資源が局地的に存在し、地域においては地域資源相互の間との關係と地域間との關係とが連動、一体化することがもたらす特性については、個々の地域資源ごとに地域外における地域資源との間および地域資源が存在する地域間で形成される広域的な地域的關係である。この關係は、地域資源の固有性の特質に応じた個別的で多彩な性格をもつため、地域振興を促す作用は、この關係の影響が及ぶ地域を中心に、地域振興の対象となる地域と地域外との間において多様な空間スケールを多層的に形成することになる。そのため、こうした広域性に対し、地域振興を促す作用を地域資源の多様な固有性、地域特性に適合させつつ地域的に統合化を図ることによって、その効果を地域外も含めて生み出し、高めていくことが重要である。その際には、各々の地域資源が地域内外に対してもつ固有性、それに基づく拠点的功能は、ツーリズム推進の空間スケールに応じた多様な内容とそれに基づくより柔軟な地域的

展開を不可欠とするため、地域振興の対象となる地域については、それを基盤としたツーリズム推進を中心とする効果をもたらす方策、また、ツーリズム推進を含む生活や経済、環境などの多面的な領域との関わりで複合的な効果をもたらす包括的な方策を明確にするとともに、これら両者の連関を促し、相乗的に効果をもたらすことを可能とする方策を地域振興の推進のための軸として見出すことが焦点となる。

IV. ツーリズム推進を中心とする方策

以上のような地域的關係の特性、広域性との関わりについては、地域振興を促す要因としてのツーリズム推進のための方策とその空間特性に関する論点（森 2009）をふまえ、ツーリズム推進を中心とする地域振興を促す効果をもつ方策を具体化するとともに、それを地域振興の推進に結びつけていく必要がある。そのためには、地域的關係の特性、広域性との関わりを基に地域振興を促す作用において軸となる側面を見出し、ツーリズム推進を中心とする方策の構築において重視すべき課題を明らかにすることが重要となる。

この点に関して、森（2004, 2005, 2006, 2008, 2009, 2010, 2011）で取り上げている三重県東紀州地域にお

ける取組みをみると、まず、東紀州地域観光圏が、「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律」（観光圏整備法、2008年7月施行）に基づき、2010年度観光圏整備実施計画認定対象地域となっており、観光圏整備計画に関しては第1表に示している。東紀州地域においては、東紀州観光まちづくり公社が地域のコーディネーター役となり（尾鷲市ほか 2010: 13）、取組みを進めることになっているが³⁾、世界遺産「紀伊半島の霊場と参詣道」に関わる観光圏は、東紀州地域のほかに、吉野大峯・高野観光圏、聖地熊野を核とした癒しと蘇りの観光圏があり⁴⁾、各々の観光圏整備の推進において焦点となる地域資源としての世界遺産を軸とする地域間の連携、世界遺産総体としての価値に基づくより広域的な地域的關係の形成を不可欠とする取組みが重要な課題になっているといえる。

次に、東紀州地域においては、過疎化に伴う問題のための対策が求められてきているが、「過疎地域自立促進特別措置法の一部を改正する法律」（2010年4月施行）により、尾鷲市が「過疎地域」に指定されることとなり⁵⁾、同市は尾鷲市（2010）を策定して、それに基づく取組みを行っている。この計画でのツーリズムに関わる主要内容を第2表に示している。事業では、過疎化に伴う東紀州地域全域に関わる問題のための対策が必要と

第1表 「東紀州地域観光圏整備計画～伊勢神宮と熊野三山を結ぶ“熊野古道”を世界へ～」

<p>1. 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針</p> <p>(1) 東紀州地域観光圏の取組の特徴 観光地化されて来なかった地域資源の活用、東紀州一体となった官民協働の地域づくり、地域づくりから観光集客への展開、長期滞在型観光を促進する環境整備、道の世界遺産“熊野古道伊勢路”を世界へ発信、近隣観光圏等との連携</p> <p>(2) 観光圏整備期間終了後の目指す姿 「おもてなしの東紀州」として「地域ぐるみ」で誘客を促進しています。」と示したうえで、旅館、民宿、ホテル、キャンプ場など、飲食店、土産物店など、地域住民のおもてなしの心、観光客からの評価について記載している。 5年後の目指す姿では、熊野古道伊勢路、農山漁村（地域）をフィールドにした豊富な体験メニュー、高速道路の延伸、2つの拠点施設、エコツーリズムの取組について、また、方向性では、地域・市町の取組を生かした観光、広域での体験型観光、地域のホスピタリティの向上、情報発信力の強化、2泊3日以上滞るとりピーターづくり、観光消費額の増加、外国人観光客への対応について各々記載している。</p> <p>2. 観光圏の区域 三重県尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町</p> <p>3. 滞在促進地区の区域 紀北地区、尾鷲地区、熊野地区</p> <p>4. 観光圏整備計画の目標 圏域内への年間観光入込み客数 175万7,000人、宿泊客の観光消費額3万6,000円、平均宿泊数1.8日、宿泊者数105万8,000人、再来訪の意向95%（いずれも平成26年）</p> <p>5. 観光圏整備事業に関すること 観光旅客の宿泊に関するサービスの改善及び向上、観光資源を活用したサービスの開発及び提供、観光旅客の移動の利便の増進、観光に関する情報提供の充実強化各々に関する事業、その他観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に資する事業について記載している。</p> <p>6. 計画期間等 事業実施期間は、平成22年度から平成26年度とし、本計画について、見直しの必要が認められた場合は、東紀州地域観光圏協議会の会議の議決を経たうえで、見直すものとしている。</p>

出典：尾鷲市ほか（2010）により作成。

なるなかで、尾鷲市内の地域資源を基盤としつつ、その効果を高めるためには、市域を越えた広域性を視野に入れることを不可欠とする取組みが柱として重要な役割を担っている。また、東紀州地域に拠点をもつツーリズムに関わる「コミュニティビジネス」(三重県 2011) については (第 3 表)⁶⁾、①公的施設を拠点とし、官民による地域指向を強めることによって地域を基盤とする活動を展開すること、②広域的な観点から焦点となる地域資源を基礎とし、地域外との関係を重視しつつ、特定の特性、属性を指向すること、③地域内に拠点を置く企業や NPO、地域住民が連携して進展させる取組みにおいて、地域を基盤とする多様な主体の連携に基づく拠点性

がもたらす機能 (森 2010) の中核を特定の地域を拠点とする主体が担うことといった点の重要性が示唆される。

こうしたことをふまえ、地域振興を促す作用において軸となる側面、ツーリズム推進を中心とする方策の構築において重視すべき課題については、両者を関係づけるとともに、先に示した広域性を観点とした場合の拠点的機能、地域振興を促す効果を生み出し、高めるためにそれを創出、強化することを重視した地域的關係に基づくことによって、次の 2 つの論点を深化させることが不可欠になると考えられる。

第 1 は、地域的關係において地域振興を促す作用の

第 2 表 「尾鷲市過疎地域自立促進計画 (平成 22 年度～平成 27 年度)」におけるツーリズムに関わる主な内容

<p>1. 基本的な事項 〔地域の自立促進の基本方針〕 過疎・少子高齢化への対応、美しい自然環境の保全、地場産業の活性化、安心・安全なまちづくり、市政への市民参画の拡大 〔計画期間〕 平成 22 年度～平成 27 年度</p> <p>2. 産業の振興 (事業計画) 〔観光又はレクリエーション〕 まちなかにぎわいづくり計画による観光動線整備事業、三木里地区北輪内中学校農業体験施設整備事業、熊野古道関連施設整備事業、地域振興ゾーン整備事業、ウォーキングコース整備事業、集客交流施設整備事業、健康増進プログラム開発事業</p> <p>3. 地域文化の振興等 (事業計画) 〔地域文化振興施設等〕 熊野古道整備事業</p> <p>4. 過疎地域自立促進特別事業分 〔産業の振興〕 尾鷲市イメージデザイン事業、魚の町モニュメント事業、尾鷲海洋深層水湯浴活用事業、熊野古道シャトルバス運行事業、ふるさとガイド運営事業、ウォーキングイベント事業、尾鷲よいとこ集客交流事業、グリーンツーリズム総合推進事業、熊野古道維持管理事業、過疎地域等自立活性化推進交付金事業 (まちなかにぎわいづくり事業)、輪内地区まるとこ集客交流事業 〔その他地域の自立促進に関し必要な事項〕 「美し国おこし・三重」事業、東紀州観光まちづくり公社事業</p>
--

出典：尾鷲市 (2010) により作成。

第 3 表 東紀州地域におけるツーリズムに関わる「コミュニティビジネス」

<p>1. 特定非営利活動法人ふるさと企画舎 (紀北町) 活動拠点は紀北町海山区の町営キャンプ場「キャンプ inn 海山」であり、ふるさと企画舎はこの施設の指定管理者である。管理は、町直営、運営を民間会社に委託、公募による指定管理者と変化してきた。委託に移行した際に、受注したのは県外の会社であったが、指定管理者制度を導入して全国公募をかけることになり、応募、審査の結果、採択となった。地元住民ならではの地域に密着した運営が高く評価され、2010 年で 2 期目 (4 年目) に入る。このキャンプ場の運営を通じて、地域の魅力を活用し、発信することが地域貢献だと考え、運営してきた。</p> <p>2. くまの体験企画 (尾鷲市) 少人数の個人旅行者向けに着地型のエコツアーを企画し提供する個人経営の事業所である。ターゲットとする客層は、主に 30 代前半の関東地方の女性である。2002 年に名古屋市から U ターンした代表者が健康づくりを兼ねて熊野古道を歩き始めたが、地元住民、観光客双方の意見や課題に対し、着地型のエコツアーを提供することで解決できるのではないかと考えた。その頃尾鷲市では熊野古道世界遺産登録に向けて準備が始まっており、ボランティアガイドや熊野古道の語り部になったのをきっかけに、まちづくり関係やイベント実行委員など 16 事業に参加し、案内した観光客の代弁者として意見や要望を行政や地元関係者に伝え続け、2008 年開業に踏み切った。</p> <p>3. 特定非営利活動法人天満浦百人会 (尾鷲市) 天満から尾鷲を元気にしたいと地域活性化に取り組んでいるお母さんたちの団体である。三重県立熊野古道センターの敷地内にあるスカイフードレストラン「夢古道おわせ」、独自に運営する「カフェ天満荘」の 2 つの飲食業が大きな柱である。前者の経営主体は、株式会社熊野古道おわせであるが、ランチバイキングの運営は尾鷲市内の 3 団体に任されており、天満浦百人会はその中の 1 つである。後者は、直近まで中部電力の保養所であった。45 年前に中部電力から出された補償金を全額市に寄付し、集会所が建設された。ここを拠点とする地元の製品の販売活動が行われ、厨房「笑福工房」が建設されたが、新たにこれら 2 つの拠点が生まれた。特産品の開発や販売も行っている。</p>

出典：三重県 (2011: 16-21) により作成。

軸としてとらえられる異なった方向性を、ツーリズム推進を中心とする方策の効果を生み出し、高めるための仕組みに組み込むことである。まず、地域振興の対象となる地域、それを含む広域的範囲、さらには、より広域的な関わりに基づく方策に関しては、それらの一体化を図るうえで、ツーリズム推進の観点からグローバルな関わりを含むより広域的な指向性をもつことを重視し、それ自体のあり方を追求するとともに、それと各地域との直接的な地域的關係に着目することによって明らかになる方策の軸が必要となる。次いで、個々の地域から構成される広域的範囲を対象とする場合の方策に関しては、より広域的な関わりと各地域との間における広範な地域的關係との連関の拠点形成する広域的な連携を重視し、対象となる広域的範囲におけるツーリズム推進と、ツーリズムを中心とし、広域的範囲を焦点とする地域特性に応じた多面的な領域間の関わりで構築されるより広範な地域振興のための方策との関係から見出せる地域振興を促す効果を生み出し、高めるための方策が重要である。さらに、ツーリズム推進の空間スケールに応じたより柔軟な地域的展開に基づく方策とツーリズム推進を含む多面的な領域に関わる包括的な方策との連関に関しては、地域資源に基づく個々の拠点機能統合的に拠点性の連携を形成することを重視し、個々の地域資源の固有性とその基盤となる地域特性に基づく地域的な統合化において、そうした拠点性の連携による効果を高めるための仕組みを構築することが不可欠である。そのため、個々の地域ごとのツーリズムを含むより詳細で包括的な領域間の関係、地域振興のための新たなそれらの創出が地域振興を促す効果をもたらすことを可能とする方策が重視される。

第2は、地域振興を促す作用、ツーリズムを中心とする方策の構築のプロセス、それらと主体との関わり方を規定する要因を焦点として、特に方策の有効性を高めることに寄与する仕組みを構築することである。この点に関しては、Pike et al. (2006: 253-272, 2007) が地域開発について指摘する国内外との関わりでとらえられる社会的、政治的観点からの規範性に関する問題、あるいは、Erkuş-Öztürk and Eraydın (2010) が持続可能なツーリズムに関わる環境ガバナンスについてローカルなコラボレーションやネットワーク、自助ネットワーク化などとともに重要な点として指摘する内発的ダイナミクスから示される内発性に関する問題をふまえると、そうした仕組みの構築において、それらの問題が結びつく焦点としての課題を明確にすることが不可欠となる。特

に、地域振興を促す作用については、規範的作用、内発的作用との関係から見出せる軸となる側面が重要となり、それらがここでの仕組みにおいてツーリズムを中心とするその構築を促すプロセスに組み込まれること、それに関わる主体のあり方がその効果を高めるための妥当性をもつことが重視される。また、こうした点に適合した地域的關係を仕組みの軸として形成することによって、森(2005)が地域振興に関わる計画システムに関して指摘する社会的システムにおける自律的、内発的作用を促すメカニズムを視野に入れた取組みを具体化、推進し、仕組みとそれに関わる主体の側からそれらの有効性を高めるための地域的關係を構築するプロセス、それを地域振興の推進に結びつけるための課題を明確にすることが必要になると考えられる。さらに、地域振興の対象となる地域を焦点として、こうした異なった作用が錯綜することに対し、地域内外において形成される地域的關係の特性を明らかにするとともに、それを基に、地域を基盤とすることによって効果を高めることが可能なメカニズムを創出、強化し、より広範な地域振興の推進のための仕組みとして具体化することが重要である。

V. おわりに

本稿では、ツーリズム推進を中心とする地域振興に関わる地域的關係について、まず、地域資源の固有性を重視しつつ、①地域資源がもつ地域振興を促す作用が地域全域に及ぶことがもたらす、②地域資源が地域における一定の広域的範囲に存在し、地域振興を促す作用がそうした広域的範囲を中心に地域全域に及ぶことがもたらす、③地域振興を促す作用をもつ地域資源が局地的に存在し、地域においては地域資源相互の間関係と地域間関係とが連動、一体化することがもたらすという3つの特性、次いで、広域性を重視した地域的關係については、各々の特性ごとに、①地域資源がもつ地域振興を促す作用が地域振興の対象となる地域だけでなく、地域外の地域にも及ぶことによって形成される地域的關係、②広域的範囲が地域外において作用が及ぶ範囲を含み、地域内外の一定の広域的範囲がもたらす作用が促されることによって形成される地域的關係、③個々の地域資源ごとに地域外における地域資源との間および地域資源が存在する地域間で形成される広域的な地域的關係の3つを提示し、各々を論点として考察した。

さらに、地域振興を促す作用において軸となる側面、ツーリズム推進を中心とする方策の構築において重視す

べき課題については、①地域的關係において地域振興を促す作用の軸としてとらえられる異なった方向性を、ツーリズム推進を中心とする方策の効果を生み出し、高めるための仕組みに組み込むこと、②地域振興を促す作用、ツーリズムを中心とする方策の構築のプロセス、それらと主体との関わり方を規定する要因を焦点として、特に方策の有効性を高めることに寄与する仕組みを構築することという2つの論点を提示し、各々について考察した。

今後は、以上から見出せる地域振興に関わる地域的關係に基づく方策、仕組みに関する論点を深化させ、それらの効果を高めるためのメカニズムを明らかにするとともに、それを基に、ツーリズム推進を含むより包括的な地域振興のための方策を具体化することが課題となる。

注

- 1) 地域開発に関する全体論的、プログレッシブ、持続可能性といった点からのアプローチ (Pike et al. 2006: 253-272, 2007)、新地域主義 (new regionalism) との関わり、地域的イノベーション、新しくより広範で高い持続可能性のメトリック (Morgan 2004) といった包括的な地域振興自体のとらえ方、方向性に関わる問題の重要性を視野に入れる必要がある。
- 2) これについては、例えば、都市を中心とする都市住民のレクリエーションの形態、頻度、景観に関して小池 (1960) が示す地域的關係が関わる。
- 3) 尾鷲市ほか (2010) では、同公社 (1994年設立の東紀州地域活性化事業推進協議会を2007年から改組) が、引き続き、観光関連産業のレベルアップ、一次産品の特産品化、もてなしの地域づくり、隠れた観光資源の発掘、これまで積み上げてきた体験プログラムや観光ルートの商品化、マスコミや旅行事業者へのPRなどを進めるとし、第1表における「観光圏整備期間終了後の目指す姿」の具体的内容を示している。
- 4) 観光圏整備計画は、各々、「吉野大峯・高野観光圏整備計画～神仏が宿る心のふるさと～」(奈良県吉野町・黒滝村・天川村・五條市・野迫川村・和歌山県高野町、2011年度認定)、「聖地熊野を核とした癒しと蘇りの観光圏整備計画『健心・健脚・健浴・健食』を体感する心身再生の旅-「健康・保養」の体験型観光地域の創造-」(和歌山県田辺市・奈良県十津川村、2009年度認定)である。
- 5) 三重県においては、「三重県過疎地域自立促進方針 (平成22年度～27年度)」(三重県、2010年)に基づき、三重県 (2010) が策定されており、対象地域としての「過疎地域」は、津市の一部 (美杉地区)、松阪市の一部 (飯南・飯高地区)、尾鷲市、鳥羽市、熊野市、大台町、大紀町、南伊勢町、紀北町である。
- 6) 東紀州地域における「コミュニティビジネス」としては、これらのほかに、尾鷲市で唯一残る棚田の原風景の復活を目指す農事生産塾「向井の郷」(尾鷲市)、また、自動車部品工場を改装した施設 (カフェ、ホール) を拠点に、国内各地を中心に海外でも演奏活動を行う有限会社天女座 (熊野市) がある (三重県 2011: 22-25)。

文献

- 小池洋一 (1960) : 都市住民のレクリエーション形態とその地域的關係、『地理学評論』, 33: 615-625.
- 尾鷲市 (2010) : 『尾鷲市過疎地域自立促進計画 (平成22年度～平成27年度)』.
- 尾鷲市・熊野市・紀北町・御浜町・紀宝町・三重県 (2010) : 『東紀州地域観光圏整備計画～伊勢神宮と熊野三山を結ぶ“熊野古道”を世界へ～』.
- 三重県 (2010) : 『三重県過疎地域自立促進計画 (平成22年度～平成27年度)』.
- 三重県 (2011) : 『三重のCB (コミュニティビジネス)』.
- 森信之 (2004) : 地域発展のための地域的条件-ツーリズムと地域経済に基づく論点-, 『観光研究論集』 (大阪明浄大学観光学研究所年報) 3: 13-27.
- 森信之 (2005) : 地域変化と計画システムの再構築-地域経済構造とツーリズムを中心とする考察-, 『観光研究論集』 (大阪明浄大学観光学研究所年報) 4: 33-50.
- 森信之 (2006) : 地域振興の構造-空間とツーリズムに基づく視点-, 『観光研究論集』 (大阪観光大学観光学研究所年報) 5: 113-126.
- 森信之 (2008) : 地域振興のメカニズムと計画、『大阪観光大学紀要』 8: 47-53.
- 森信之 (2009) : 地域振興におけるツーリズム推進の空間特性、『大阪観光大学紀要』 9: 33-39.
- 森信之 (2010) : 地域振興とツーリズムに関わる計画推進、『大阪観光大学紀要』 10: 167-178.
- 森信之 (2011) : 環境保全とツーリズム推進-地域的視点を中心に-, 『大阪観光大学紀要』 11: 93-100.
- Dredge, D. and Pforr, C. (2008) : "Policy networks and tourism governance", in Scott, N., Baggio, R and Cooper, C. eds. *Network analysis and tourism: from theory to practice*, Channel View Publications: 58-78.
- Erkuş-Öztürk, H. and Eraydın, A. (2010) : "Environmental governance for sustainable tourism development: collaborative networks and organisation building in the Antalya tourism region", *Tourism Management*, 31: 113-124.
- Hall, C. M. (2011) : "A typology of governance and its implications for tourism policy analysis", *Journal of Sustainable Tourism*, 19: 437-457.
- Morgan, K. (2004) : "Sustainable regions: governance,

innovation and scale”, *European Planning Studies*, 12 : 871–889.

Pike, A., Rodríguez-Pose, A. and Tomaney, J. (2006) : *Local and regional development*, Routledge.

Pike, A., Rodríguez-Pose, A. and Tomaney, J. (2007) : “What kind of local and regional development and for whom?”, *Regional Studies*, 41 : 1253–1269.